

face to face
～面と向かって～

2018 年理事長候補者 中村 昭一

◆はじめに

公益社団法人吹田青年会議所は来年で創立50年を迎えます。1970年、我々の先輩方が、「明るい豊かな社会」の創造を理想とし、当会を創立されました。そして、英知と勇気と情熱をもって、素晴らしい運動を展開してこられました。「志」「心意気」「理念」「思いやり」「感謝」を持って行われた数多くの事業や提言は、吹田のまちに大いなる影響を与え、地域社会に貢献し、多くのつながりを生みながら、青年会議所運動は地域と共に育ち広がってきました。

成功体験におごることなく結果の検証を行ない、失敗は謙虚に受け止め、同じ失敗を繰り返さないように努めてきたことが49年目を迎える当会の歴史につながってきたのです。

我々の活動拠点である吹田市は、市民病院や国立循環器病研究センターを中心とする「健都」での健康・医療のまちづくりや、おおさか東線の整備による新駅（南吹田駅）の設置が進められていくだけでなく、市立吹田サッカースタジアムやエキスポシティ等の施設が既に存在しているなど、非常に恵まれた環境にあります。

日本全体に目を向けても、情報技術の発展に伴うスマートフォン・SNS等の普及により、ある程度の知識さえ持っていれば、大人も子どもも、自室にいながら世界中の情報を簡単に知ることができます。また、一個人の発言や行動を、自由に世界中の人々に簡単に発信できるツールまで生まれています。そして、それらのツールを活用して収入を得るブロガー・YouTuber という新しい職業が生まれました。中でも YouTuber は子どもの将来の夢になるほどの人気ぶりです。我々も例外ではなく、SNSなどのツールを利用して当会の事業への参加を呼び掛けたりしています。過去に先輩方が苦勞し工夫された事業PRや参加の呼び掛けなどに関しては便利になったように感じます。

このような身の回りのモノの豊かさや利便性から社会を見ると、吹田だけでなく日本全体が「明るい豊かな社会」に近づいているのではないのでしょうか。

しかし、便利で豊かになり過ぎたが故に、近年では立場のある人間がSNSで不用意な発言をしたり、不用意な行動をスマートフォンで写真に撮られたりしています。また、子どもの間ではSNSによるいじめも深刻化しています。このような事象は、相手の顔を見ることなく自分の考え・意見を一方的に発信できてしまうことの弊害です。そこに「思いやり」はありません。情報やモノはどんどん豊かになり、その一方では「心」が貧困化していく。この「心」の貧困化に歯止めをかけ「心」を豊かにしていくことができる社会こそ、本年度の当会が目指す「明るい豊かな社会」だと考えます。本年度は、今まで以上に「責任」と「思

「思いやり」をもって行動し、「face to face～面と向かって～」で「明るい豊かな社会」を築いてまいります。

1. 「責任」と「思いやり」のある組織

「青年会議所とは“明るい豊かな社会”の実現を理想とし、時代の担い手たる責任感をもった指導者たらんとする青年の団体である。」

これは青年会議所の「BIBLE OF JAYCEE」という本の一文です。自分の習慣や固定観念にとらわれることなく、メンバーが自らの発言や行動に「責任」を持ち率先して行動すること、自ら行動し成功や失敗の経験や体験をすることが大切です。

毎月の定例会で顔を合わせ、共に学び、議論を重ねていくことで、「責任」や「思いやり」が生まれ、相手の立場になって物事を考えることができます。この「責任」と「思いやり」をもって地域社会や子どもと向き合うことで、信頼・つながりが生まれ、その関係性がより強固なものになり、地域社会からより一層必要とされる組織になります。

2. 子どもと共に「心」を養う

これからの教育のかたちとして、学校や家庭だけでなく、地域や企業・他の団体と当会が一体となった地域共育の向上を目指します。知識だけが増えても、相手の立場に立って考えること、創造力を働かせ考えることはできません。我々は、人生の早い時期でより多くの他人とぶつかり、関わり、お互いを理解し合い、時には助け合う経験を積むことを通じて、人とのつながりや「思いやり」を育む機会を提供します。

当会の会員が「心意気」と「思いやり」をもって率先して行動し、地域社会の次世代を担う子どもと真剣に向かい合うことで、真剣に取り組むことや「思いやり」の大切さが子どもに伝わり、また、会員自身の成長にもつながります。

3. 大きな「志」を抱く国際交流。

現代の子どもは、インターネットやSNSで世界中のことを簡単に知ることができます。当会では、子どもが知識を得るだけでなく、早くから海外に行く体験・経験をすることで、様々な価値観や環境を受け入れ、現在の環境に対する「感謝」の気持ちや、海外まで視野を広げた夢や志を持ってほしいと考えています。

1988年から始まった香港の浩洋青年商會（オーシャンJC）との交流事業「joint project」は3年ごとに吹田・香港とお互いの地で交互に実施されます。オーシャンJCとは3年に一度開催する交流事業に向けて毎年お互いの会員が吹田～香港を往来して事業実施に向けて準備しています。本年度は香港の地で事業実施の年であり、吹田市の子どもが香港に行く機会を提供します。このように交互に事業を実施し、毎年交流を続けてきた関係は長い年月における両青年会議所の先輩方が築かれてきた財産であり、これを受け継いでいかなければなりません。我々はこれからも海外の人々と国境を越えた友情を築くと

ともに、相互理解を深め、広い視野で物事を考えられる国際感覚を備えた青少年の育成に大きく寄与します。

4. 多様な感性を求める「会員拡大」

当会には様々な会員が在籍し、それぞれの立場から自分たちに何が出来るかを考え、議論を重ね活動しています。「明るい豊かな社会」を築くには、様々な価値観や感性を持つ仲間を増やし、相手の立場を考えた「思いやり」や自身の「志」に基づいた想いを相手に伝えていくことが必要です。青年会議所運動をきっかけに若者が集い、まちづくりに情熱を傾け、修練を重ねて試練を乗り越える。その過程で会員同士に友情が芽生え、生涯信頼しあえる仲間ができ、仕事やその後に活かせる知識が身に付き、人脈ができます。「face to face～面と向かって～」で真剣に意見を交わし合える仲間との出会いは、個人の視野を広げ、今後の人生をますます豊かにしてくれます。より多くの人と出会えるように、その出会いをまちづくりに活かすべく本年度も会員が増えるよう力を注いでまいります。

5. 50周年という節目にむけて

来年、吹田青年会議所は50年という節目を迎えます。本年度は、50周年準備委員会を立ち上げ50周年に向けて万全の準備をおこないます。また、来年は大阪府下、29の青年会議所が一堂に会する「大阪ブロック大会」をこの吹田の地で開催します。他の青年会議所に吹田の素晴らしさを知ってもらう機会とするとともに、開催一年前となる本年度から、大阪ブロック協議会と十分な連携をとり、素晴らしい大会にすることを約束します。

そして、当会が長年関わってきた「吹田まつり」も同様に、来年で50周年を迎えます。市民に吹田の街の魅力を感じてもらえるよう、行政・他の団体と連携していきます。

むすびに

私自身、10年間のJC活動において様々な発言や行動をしてきました。たくさんのメンバーとの出会い、先輩方との出会い、様々な協力者や協力先との出会いを通じて、今の良い関係を築いてくれたのは「面と向かって」発言し、その発言に「責任」を持って行動してきたからだと考えています。自分自身の発言には責任を持ち、できる限り全力で取り組む。それこそが私の「信念」です。一年間、理事長という立場と責任に臆することなく、メンバーにも先輩方にも「face to face～面と向かって～」で行動してまいります。

改めて、長きにわたる諸先輩方のご尽力に感謝し、長年にわたり当会にご協力いただいた企業・団体とのつながりに感謝します。「明るい豊かな社会」の実現に向けた運動を推進するとともに、創立50周年を目前に控えた2018年度の吹田青年会議所は、将来を見据えた大きな「志」を抱き、会員一人ひとりが「感謝」と「責任」をもって活動してまいります。

<基本方針>

- ・ 全員参加の定例会
- ・ つながりを意識した組織づくり
- ・ 思いやりと感謝の言葉で築く信頼関係
- ・ 青年として責任ある行動
- ・ 大阪ブロック協議会との更なる連携の強化